

第三者評価結果入力シート（児童養護施設）

種別	児童養護施設
----	--------

①第三者評価機関名
 特定非営利活動法人 NPOかなびの丘

②評価調査者研修修了番号
 SK2021199
 SK2021210

③施設名等

名称：	翼
施設長氏名：	土井 聡子
定員：	24 名
所在地(都道府県)：	大阪府
所在地(市町村以下)：	豊中市宝山町16-8
T E L：	06-6210-6661
U R L：	
【施設の概要】	
開設年月日	2018/1/1
経営法人・設置主体（法人名等）：	社会福祉法人 大阪水上隣保館
職員数 常勤職員：	21 名
職員数 非常勤職員：	20 名
有資格職員の名称（ア）	社会福祉士
上記有資格職員の人数：	4 名
有資格職員の名称（イ）	保育士
上記有資格職員の人数：	11 名
有資格職員の名称（ウ）	公認心理士
上記有資格職員の人数：	3 名
有資格職員の名称（エ）	臨床心理士
上記有資格職員の人数：	1 名
有資格職員の名称（オ）	栄養士
上記有資格職員の人数：	1 名
有資格職員の名称（カ）	
上記有資格職員の人数：	名
施設設備の概要（ア）居室数：	個室 12室 2人部屋 6室
施設設備の概要（イ）設備等：	乳児院小規模グループケア『たんぽぽホーム』（6名）
施設設備の概要（ウ）：	地域交流スペース
施設設備の概要（エ）：	心理治療室

④理念・基本方針

【養育支援の基本理念】こどもたちのかけがえのない命を守り、一人ひとりを尊重し、それぞれが主体的に成長発達できるよう援助する。そのために、こどもたちの「育つ力」を最大限に引き出し、認め、支え、自らを「愛される存在」「大切な存在」として認識し、高い自己概念、自尊感情、自己肯定感をもって成長していくための土台とし、育む。

【養育・支援の基本方針】（1）安心と安全が保障され、育つ喜びを感じられる環境 （2）小集団を活かした個の形成
 （3）こどもの人権が保障され、意見や意思が尊重される環境 （4）基本的な生活習慣の獲得と家庭的生活経験の蓄積の保障
 （5）心身の健康の保障 （6）信頼できる大人とのアタッチメントの形成 （7）養育・支援の計画的な実施と共有化 （8）家庭支援における協働の姿勢 （9）地域住民としての生活や活動の保障

⑤施設の特徴的な取組

○大阪水上隣保館遥学園を母体に小規模グループケアを行い、同建物内の乳児院の小規模グループケアを付設し一体的に運営している。

○周辺5市と子育て短期支援事業の契約を締結し、受け入れのための居室を各フロアーに設けている。

○地域のイベントや事業に参加・参画し、積極的に交流を推進するとともに、ボランティアや教職員対象の研修に講師を派遣している。

⑥第三者評価の受審状況

評価実施期間（ア）契約日（開始日）	2022/11/1
評価実施期間（イ）評価結果確定日	2023/3/28
前回の受審時期（評価結果確定年度）	令和元年度（和暦）

⑦総評

同施設は、2018年1月の開設から5年目を迎えています。所在地の豊中市は大阪都市圏の中でも郊外住宅地として早くから発展してきたまちです。2025年には府内の中核市として初の児童相談所の設置が決っており、そんななか、小規模グループケアの児童養護施設と乳児院の一体運営を行い成果につなげてきています。市内唯一の乳児院・児童養護施設の使命と役割、また里親支援や乳幼児から学童に至る子育てスキルを地域に還元し協働事業をなすべく、社会的養護の先行施設としての自覚をもって、施設長はじめ全職員一丸となって取り組んでいます。

【評価が高い点】

- ◆子どもと地域との交流を広げるための取組み
地域との交流についての基本姿勢を定めるとともに、自治会活動の参加や『子どもの安全見まもり隊ベスト』を近隣に配布し協働して子どもの安全に取り組んでいます。また、近隣の高齢者施設や複数の店舗とも日ごろから交流を持ち、施設と地域の子どもや高齢者の安心安全に積極的な活動を行なっています。
- ◆ボランティアの受け入れや地域活動への参加
施設の基本方針に基づいて、学習ボランティアをはじめ、器楽演奏・居室片づけ・お菓子作り・花壇の手入れ等多方面にわたって積極的に受け入れ、子どもたちの日常生活に活気と潤いを提供しています。また、施設への受け入れにとどまらず、学校や地域の活動に職員もボランティアとして積極参加しています。
- ◆生活の中でのLSW（ライフストーリーワーク）の取組み
子どもの生い立ちを振り返る取組みを重視し、経過記録ソフトにLSW（ライフストーリーワーク）の項目を設定し、生活の中でのLSWを実施しています。具体的には、出身乳児院や出生した病院訪問、移動の地図やエコマップ、生活年表、アルバムの整備など子どもの発達や特性に応じた取組みを実施しています。
- ◆自立支援計画作成・見直し
自立支援計画は、子どもの担当者及びフロアリーダーが作成しています。入所にあたっては「児童状態把握シート」というチェック表を基にし、担当⇒フロアリーダー⇒主任という経路で決定されています。自立計画は、幼児版、学童版というように発達段階に応じて様式や項目の異なったものが用意されており、子ども自身が担当と協同で作成する取組みがなされています。また、年2回の見直しでは「自立支援計画見直しシート」を作成し、心理担当職員等、多職種の職員によって協議検討する仕組みとなっています。
- ◆子どもの感情や言動の受けとめと理解
「トラウマインフォームドケア」や「叱る依存」などの研修を職員全員で受講し、子どもの感情や言動を理解するよう努めています。

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

施設運営のあり方では未熟な部分が多く、何が求められているのか確認することが出来ました。養育・支援においては、工夫して取り組んでいる点を評価していただきました。一方で子どもや保護者への養育の見える化の取り組み等課題も見えました。いただいた評価を参考に、未整備な部分の仕組みづくりに努めてまいります。

⑨第三者評価結果（別紙）

（別紙）

第三者評価結果（児童養護施設）

共通評価基準（45項目） I 養育・支援の基本方針と組織

1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。		第三者評価結果
①	1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	b
	<input type="checkbox"/> 理念、基本方針が法人、施設内の文書や広報媒体（パンフレット、ホームページ等）に記載されている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念は、法人、施設が実施する養育・支援の内容や特性を踏まえた法人、施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。	○
	<input type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されているとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、子どもや保護者等への周知が図られている。	
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。	

【コメント】

- 理念・基本方針は法人、施設ともにしっかりと策定されています。
- 利用者への周知はリーフレットに一部記載されていますが、特に保護者や子ども向けの発信とはなっていません。九項目にわたる基本方針を軸にわかりやすく示すとともに、リーフレットへの掲載や施設内での掲示、配布等の工夫が望まれます。

2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。		第三者 評価結果
①	2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	b
	<input type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの数・子ども像等、養育・支援のニーズ、潜在的に支援を必要とする子どもに関するデータを収集するなど、施設(法人)が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 定期的に養育・支援のコスト分析や施設入所を必要とする子どもの推移、利用率等の分析を行っている。	<input type="checkbox"/>
【コメント】		
■大阪府及び地元市の整備計画並びに福祉計画の把握と分析を行なって、課題を明らかにしたうえ、必要な改善へのさらなる取り組みが望まれます。		
②	3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	a
	<input type="checkbox"/> 経営環境や養育・支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員(理事・監事等)間での共有がなされている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。	<input type="checkbox"/>
【コメント】		
■直接支援現場の職員や子どもたちにも分かるよう、食費や光熱水費の明細等、日常生活の身近な支出を図表にするなど、情報提供の形を工夫しています。		
■職員も子どもたちも、一般的な家庭の出費の状況を知り、その上で無理のない範囲で節約の意識を喚起するという取り組みが行われています。		

3 事業計画の策定

(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。		第三者 評価結果
①	4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	a
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。	<input type="checkbox"/>
【コメント】		
■法人の「小規模地域分散化、高機能化及び多機能化・機能転換」に向けた計画は、2019年9月の時点で策定されていますが、当施設においては、上の計画に先がけて小規模化を実現し、1ユニットの人数や、地域小規模児童養護施設の開設等、具体的な展望が示されています。		
■数年後、所在市に児童相談所が開設予定であることに合わせて、持てる機能のさらなる発揮と、地域還元も視野に入れた計画の充実と実現への取り組みが期待されます。		
②	5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	a
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画(事業計画と収支予算)に、中・長期計画(中・長期の事業計画と中・長期の収支計画)の内容が反映されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画は、実行可能な具体的な内容となっている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。	<input type="checkbox"/>

<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	○
--	---

【コメント】

■2021年度事業計画・事業報告と2022年度 of 事業計画の中身に関して、なかでも、標準的な実施方法や各種マニュアルの策定、新規里親登録等の取組みについては、高く評価できます。

(2) 事業計画が適切に策定されている。

①	6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	a
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。	○
	<input type="checkbox"/> 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)されており、理解を促すための取組を行っている。	○

【コメント】

■事業計画は、ホーム(男女各生活単位)・フロアー(男女別グループ)の職員一人ひとりの意見を反映して作成され、職員会議等で見直し・改善の取組みがなされています。

②	7 事業計画は、子どもや保護者等に周知され、理解を促している。	b
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、子どもや保護者等に周知(配布、掲示、説明等)されている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を子ども会や保護者会等で説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、子どもや保護者等がより理解しやすい工夫を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画については、子どもや保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。	○

【コメント】

■事業計画、特に行事案内や外泊予定、ボランティア活動、地域スポーツ・文化活動への参加案内等の取組みは評価できます。

■今後、子どもに対しては、周知を超えて事業計画策定への子どもの参画に関して、小規模グループごとで「子どもとともに作る活動計画」を作成するなどして、事業計画に反映する取組みが望まれます。

4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。	第三者 評価結果
--------------------------------	-------------

①	8 養育・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	a
	<input type="checkbox"/> 組織的にPDCAサイクルにもとづく養育・支援の質の向上に関する取組を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容について組織的に評価(C: Check)を行う体制が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的に受審している。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。	○

【コメント】

■日々の養育支援の取組みについては、小規模グループ単位、またフロア会議においても、主任や専門職員を交えて適時会議をもち、子どもへのケアはもとより、職員一人ひとりが自己チェックを行い、子ども・職員ともどもで安定した生活の維持に努めています。

②	9 評価結果にもとづき組織として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	b
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。	
	<input type="checkbox"/> 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。	

【コメント】

■日々の養育・支援上の情報交換は、引継ぎや諸会議を通して行われていますが、開設5年目にあたり、中・長期的な課題に対する改善や見直しの取り組みに関しては、これから先の注力が求められます。

II 施設の運営管理

1 施設長の責任とリーダーシップ

(1) 施設長の責任が明確にされている。		第三者 評価結果
①	10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 平常時のみならず、有事(事故、災害等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。	<input type="radio"/>

【コメント】

■施設長は今年度の就任ですが、就任早々から施設長の役割や使命を明確にするとともに周知し、施設内外の会議への参加をはじめ運営面はもとより養育支援面への目配りも怠ることなく、精力的に役割遂行に努めています。

②	11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者(取引事業者、行政関係者等)との適正な関係を保持している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。	

【コメント】

■法人はじめ外部関係機関の会合や研修にも精力的に参加し、目まぐるしく変化する社会的養護を取り巻く環境に対応し、法令や条例の改正なども的確に把握するよう心がけています。ただ、それらの情報を運営や養育・支援などの具体的施策に反映するところまでには、今後、さらなる努力や工夫が要求されます。

(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。		
①	12 養育・支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。	<input type="radio"/>

<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	○
<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。	○
(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> 施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。	○

【コメント】

■長年にわたり培われた揺るぎない経験と知識やスキルを基調として、「職員育成」から「支援現場のスキルアップ」また「個別支援のさらなる充実」などに向け、現場職員と協調して積極的な取組みを進めています。

②	13 経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	○

【コメント】

■法人の施設長会議や施設内運営会議のほか随時の検討会を持ち、施設運営の体制から軽微な日常生活上の事案に至るまで、職員と子どもの意見に耳を傾けながら「施設生活の質の向上」に精力的に取り組んでいます。

2 福祉人材の確保・育成

(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。		第三者 評価結果
①	14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	a
	<input type="checkbox"/> 必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援に関わる専門職(有資格の職員)の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。	○
	<input type="checkbox"/> 計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。	○
	(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> 各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。	○

【コメント】

■人材確保については法人採用を主軸とし、当人の希望事業所への配属を尊重しています。また、学生アルバイトや実習生を正職員に登用していくあり方についても積極的に取り組んでいます。
■法人内4施設の施設長会を通じて情報収集・交換に努め、共同して採用者の育成に取り組む、専門職の配置を進めるなどしながら支援の底上げに努めています。

②	15 総合的な人事管理が行われている。	c
	<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にし、職員自らが将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みができている。	○
	<input type="checkbox"/> 人事基準(採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準)が明確に定められ、職員等に周知されている。	
	<input type="checkbox"/> 一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。	
	<input type="checkbox"/> 職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。	

把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。

【コメント】

■施設長による年間2回の個別面接など、職員の意向把握やメンタルケアの取組みもなされていますが、評価システムなど人事管理の仕組みには至っていません。
■今後、目指すべき法人・施設像に相応しい人事管理のあり方について、多くの参画を得ながらの多角的な検討が求められます。

(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。

①	16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような仕組みの工夫をしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 福祉人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

■日ごろから、施設長や主任と、また職員同士の活発なコミュニケーションを心がけ、支援現場でひとりで抱え込まないようにチームケアに努めています。
■人手不足の中でありながらも、有給休暇や育児休業等が希望どおりに取得できる、ライフワークバランスに配慮した体制の早期実現に向け、努力が重ねられています。

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

①	17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標(目標項目、目標水準、目標期限)が明確かつ適切に設定されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

■年度当初には、「職員ひとり一人の職務分掌に対する目標設定や意見・要望等」について、施設長による個別の対応がなされています。今後は、年度当初だけでなく、中期・年度末と年間を通して職員に寄り添う教育・育成の仕組みづくりと実施が望まれます。

②	18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設が目指す養育・支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 現在実施している養育・支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 定期的に計画の評価と見直しを行っている。	<input type="checkbox"/>

□定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。	○
--------------------------------	---

【コメント】

■「キャリアパスモデルによる育成レベルにおける研修計画」を参考に、新任職員研修・中堅職員研修・リーダー研修を年間複数回実施しています。また、支援面では対人援助や交流研修などが年間を通して企画・実践されています。

③	19 職員一人ひとりの教育・研修等の機会が確保されている。	a
	□個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。	○
	□新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。	○
	□階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。	○
	□外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。	○
	□職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。	○
	(社会的養護共通) □スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。	○

【コメント】

■施設内研修をはじめ、外部研修へもテーマに合わせて該当職員を積極的に派遣し、参加職員の報告を通して全職員で情報共有しています。
■今年度より、外部からスーパーバイザー（大学教授）を招聘し、さまざまな事例についての理解と対応スキルの向上を図っています。

(4) 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。

①	20 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	a
	□実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成に関する基本姿勢を明文化している。	○
	□実習生等の養育・支援の専門職の研修・育成についてのマニュアルが整備されている。	○
	□専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。	○
	□指導者に対する研修を実施している。	○
	□実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。	○

【コメント】

■実習生受け入れマニュアルに基づき、年間を通して保育士や社会福祉士のほか里親なども幅広く実習を受け入れています。
■支援現場実習は、就労2年目以上の職員が担当していますが、実習ノートや成績評価については、リーダーと実習担当者の助言のもとで一般支援職員も携わり、スキルアップに活用しています。

3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。		第三者 評価結果
①	21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	a
	□ホームページ等の活用により、法人、施設の理念や基本方針、養育・支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。	○
	□施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公開している。	○
	□第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公開している。	○
	□法人、施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人、施設の存在意義や役割を明確にするように努めている。	○

<input type="checkbox"/> 地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。		○
【コメント】 ■法人機関紙(「水上の友」)やホームページに、第三者評価の受審結果をはじめ社会的養護を担う施設としての役割・使命、活動についても逐一情報公開するとともに、長年にわたり施設が培ってきた子育ての機能を社会に還元する取組みを積極的に行なっています。		
②	22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等に関するルール、職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)の事業、財務について、外部の専門家による監査支援等を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 外部の専門家による監査支援等の結果や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。	○
【コメント】 ■施設運営については、定期的に法人内の4施設の長による情報交換、課題検討や改善協議とともに、外部機関の公認会計士の監査を受け、指摘事項等をより密度の濃い施設運営に活かせるよう取り組んでいます。		

4 地域との交流、地域貢献

(1) 地域との関係が適切に確保されている。		第三者 評価結果
①	23 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの個別の状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設や子どもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々の子どものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。	○
	<input type="checkbox"/> (児童養護施設) <input type="checkbox"/> 学校の友人等が施設へ遊びに来やすい環境づくりを行っている。	○
【コメント】 ■地域との交流についての基本姿勢を定めるとともに、自治会活動の参加や『子どもの安全見守り隊ベスト』を近隣に配布し協働して子どもの安全に取り組んでいます。 ■近隣の高齢者施設や複数の店舗とも日ごろから交流を持ち、施設と地域の子どもや高齢者の安心安全に積極的な活動を行なっています。		
②	24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	a
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化して取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している。	○
	<input type="checkbox"/> ボランティアに対して子どもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。	○
【コメント】 ■施設の基本方針に基づいて、学習ボランティアをはじめ、器楽演奏・居室片づけ・お菓子作り・花壇の手入れ等多方面にわたって積極的に受け入れ、子どもたちの日常生活に活気と潤いを提供しています。 ■施設への受け入れにとどまらず、学校や地域の活動に職員もボランティアとして積極参加しています。		
(2) 関係機関との連携が確保されている。		

①	25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	a
	□当該地域の関係機関・団体について、個々の子どもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。	
	□職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。	○
	□関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。	○
	□地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。	○
	□地域に適当な関係機関・団体がない場合には、子どものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。	○

【コメント】

■関係機関・団体との連携は、子ども・保護者の支援に不可欠の方針に則って、日ごろから地元市や周辺市との協議会を持ち、子どもの発達成長に必要な情報の把握と相互協力に積極的に取り組んでいます。
 ■社会資源については、事務室の連絡先一覧表だけではなく、新規入所児童や採用職員にもわかりやすいように、それらの位置や機能を明示したマップを作成するなどの工夫が望まれます。

(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。

①	26 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	a
	□施設(法人)が実施する事業や運営委員会の開催、関係機関・団体との連携、地域の各種会合への参加、地域住民との交流活動などを通じて、地域の福祉ニーズや生活課題等の把握に努めている。	○
	(社会的養護共通) □施設のもつ機能を地域へ還元したり、地域の関係機関・団体との連携等を通して、地域の具体的な福祉ニーズの把握に努めている。	○
	(5種別共通) □地域住民に対する相談事業などを通じて、多様な相談に応じる機能を有している。	○

【コメント】

■今年度から「つばさ」のエンパワーを考える市民の円卓会議（地域の子どもたち、翼の子どもたちや職員さんたちにあたたかいさわやかな風を送り込む取り組み）が市民・教育機関・里親・こども園等が中心となり立ち上げられました。施設機能を軸にした地域機関・団体一体型の子育て体制の新たなモデルとして、今後の活動が大いに期待されます。

②	27 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。	a
	□把握した福祉ニーズ等にもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。	○
	□把握した福祉ニーズ等にもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。	○
	□多様な機関等と連携して、社会福祉分野のみならず、地域コミュニティの活性化やまちづくりなどにも貢献している。	○
	□施設(法人)が有する養育・支援に関するノウハウや専門的な情報を、地域に還元する取組を積極的に行っている。	○
	□地域の防災対策や、被災時における福祉的な支援を必要とする人びと、住民の安全・安心のための備えや支援の取組を行っている。	○

【コメント】

■地域をあげての事業（夏祭り・地区運動会・ふれあいカーニバル・こども会クリスマス・小学校まつり等）の協賛・協力をはじめ、施設の子育て機能を活かした地元市の子育て相談事業や、近隣5市の子育て短期支援事業を行っています。
 ■併設する乳児院の粉ミルク・紙おむつはじめ生活日用品を十分に備蓄し、被災時の地域支援にも備えています。

Ⅲ 適切な養育・支援の実施

1 子ども本位の養育・支援

(1) 子どもを尊重する姿勢が明示されている。	第三者 評価結果	
①	28 子どもを尊重した養育・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。	a
	□理念や基本方針に、子どもを尊重した養育・支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○

<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する基本姿勢が、個々の支援の標準的な実施方法等に反映されている。	○
<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。	○
<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。	○

【コメント】

■子どもの権利擁護について理念や基本方針に明示するとともに、年2回「人権擁護のためのチェックリスト」や年1回の自己評価においては、特に権利擁護の項目を全職員で検証し、日ごろから子どもの安心安全を確保する積極的な取り組みが行われています。
 ■職員が子どもの課題を一人で抱え込まないように、生活支援現場で随時こまめな情報共有ミーティングを持ち、チームケア力のステップアップの仕組みを充実させています。

②	29 子どもプライバシー保護に配慮した養育・支援が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護について、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務等を明記した規程・マニュアル等が整備され、職員への研修によりその理解が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 規程・マニュアル等にもとづいて、プライバシーに配慮した養育・支援が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守れるよう設備等の工夫を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等にプライバシー保護に関する取組を周知している。	

【コメント】

■プライバシー保護要領に基づき、年度初めには全職員が情報を共有するとともに、日々の引継ぎや定例会で支援方法についてチームで振り返り、課題や対応を共有・確認し、しっかりと支援現場に反映する取り組みを行なっています。
 ■今後は、施設内外でプライバシーの対象となる事項をよりわかりやすく示すとともに、子どもだけでなく保護者にも同じように届ける取り組みが望まれます。

(2) 養育・支援の実施に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。

①	30 子どもや保護者等に対して養育・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。	b
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針、養育・支援の内容や施設の特性等を紹介した資料を準備している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設に入所予定の子どもや保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 見学等の希望に対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。	

【コメント】

■利用希望者には、リーフレットやしおり（「みんなの約束」）を用いて施設の養育・支援機能を、一人ひとりの置かれた状況に配慮した対応に取り組んでいます。
 ■「1-（1）-①の理念・基本方針の資料工夫と周知」の評価とも連動して、本項目はb評価としました。

②	31 養育・支援の開始・過程において子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等が自らの状況を可能な限り認識し、施設が行う養育・支援についてできるだけ主体的に選択できるよう、よりわかりやすくなるような工夫や配慮をして説明している。	
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程における養育・支援の内容に関する説明と同意にあたっては、子どもや保護者等の自己決定を尊重している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。	○
	<input type="checkbox"/> 意思決定が困難な子どもや保護者等への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。	

【コメント】

■職員向けの養育・支援の大枠は共有されていますが、利用者や関係機関を対象に養育支援機能を記した「生活のしおり」等での説明のあり方は十分とは言えません。
 ■今後、現に支援現場で円滑に機能している養育支援の取組みを、よりわかりやすく示し、利用者に寄り添った丁寧な対応とともに、確かな安心を伝えていくためのさらなる努力が望まれます。

③	32 養育・支援の内容や措置変更、地域・家庭への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。	○
	<input type="checkbox"/> 他の施設や地域・家庭への移行にあたり、養育・支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した後も、施設として子どもや保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。	
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した時に、子どもや保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。	

【コメント】

■開設5年目であり、措置変更・家庭引き取り、特に高齢児童の退所ケース（社会自立）は少なく、おのずと対応の振り返りや検証・改善も少ない実情です。
 ■今後、措置変更や家庭生活への支援、就学・就労自立対象児が増加することを見込み、それらに対応する体制整備への準備が望まれます。

(3) 子どもの満足の向上に努めている。

第三者
評価結果

①	33 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査が定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもへの個別の相談面接や聴取等が、子どもの満足を把握する目的で定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員等が、子どもの満足を把握する目的で、子ども会等に出席している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、子ども参画のもとで検討会議の設置等が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。	○

【コメント】

■一人ひとりの子どもと担当職員との個別面談の機会を2ヶ月に1回設定しています。個々の子どもの置かれている状況に配慮しながら子どもの不安や心配事、施設生活についての意見や要望に耳を傾け、職員間で情報交換の機会を設けています。
 ■子どもの意見や要望の支援現場への反映や、内容によっては個人の自立支援計画の見直しを行うなど、一人ひとりが発した意見を大切に受け止める意識と仕組みが定着しています。

(4) 子どもが意見等を述べやすい体制が確保されている。

①	34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	b
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の実施等から生じた苦情に適切に対応することは責務であることを理解し、苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を子どもや保護者等に配布し説明している。	
	<input type="checkbox"/> 苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、子どもや保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 苦情内容については、受付と解決を図った記録を適切に保管している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情内容に関する検討内容や対応策、解決結果等については、子どもや保護者等に必ずフィードバックするとともに、苦情を申し出た子どもや保護者等のプライバシーに配慮したうえで、公開している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情相談内容にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	○

【コメント】

■苦情解決実施要領に基づき、苦情解決の仕組みは整えられていますが、一方、利用者や地域の方が制度を活用する仕組みや意見の取り扱われ方など、その内容を情報提供する取り組みに関しては消極的です。
 ■施設が、利用者や地域とともに「子どもの最善の利益を保障する」役割・使命をより充実させる方策の一つとして、この制度利用のいっそうの活性化への努力が望まれます。

②	35 子どもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、子ども等に周知している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもが相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選べることをわかりやすく説明した文書を作成している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に、その文書の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

■小規模体制ゆえに、子どもが日常生活場面で意見を発出することも多く、そこで解決していく事案が少なくありません。そういった状況の中で、子どもと担当職員、保護者と担当職員の身近な関係を大切にするとともに、相談の中身によって、担当外職員やFSW、関係機関職員など、施設内外に他にも相談できる対象があることを周知していくことが必要です。

③	36 子どもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 職員は、日々の養育・支援の実施において、子どもが相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 意見箱の設置、アンケートの実施等、子どもの意見を積極的に把握する取組を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 意見等にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

■意見箱運営要領（2019年1月策定）に基づいて、子どもの相談や意見に対応する体制が整えられています。
 ■意見箱の開錠頻度は月2回とされ、要領の見直しは策定3年目に予定されています。投函された意見には、できるだけ迅速に対応する必要があります。また、要領等の検証時期についても検討が望まれます。

(5) 安心・安全な養育・支援の実施のための組織的な取組が行われている。

第三者
評価結果

①	37 安心・安全な養育・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	a
	<input type="checkbox"/> リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネジャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

■軽易な事故・ヒヤリハットと一つひとつの事例は記録され、それぞれへの対応はフローチャートに基づいて、職員間で情報共有のものもしっかりとなされています。また、分析の発生の状況（曜日・時間・場所・職員位置等）を詳細に分析し、再発防止に徹底した取組が行われています。

②	38 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し職員に周知徹底するとともに、定期的に見直している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防策が適切に講じられている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 感染症が発生した場合には対応が適切に行われている。	<input type="radio"/>

【コメント】

■新型コロナウイルス対策をはじめ、他の感染症対策や応急手当・救命救急等、多岐にわたり対応を明示するとともに、併設する乳児院に配置されている看護師の協力も得て、しっかりと職員研修がなされ、支援現場に活かされています。

③	39 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 災害時の対応体制が決められている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 立地条件等から災害の影響を把握し、発災時においても養育・支援を継続するために「事業継続計画」(BCP)を定め、必要な対策・訓練等を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子ども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。	<input type="radio"/>

【コメント】

■事業継続計画(2020年1月)を策定し、災害時の対応がきめ細かく示されています。
 ■毎月の退避訓練と年1回の消防署立ち合い訓練を行うなど、地域と連携した防災および発生時の対応について日ごろから施設をあげて取り組んでいます。

2 養育・支援の質の確保

(1)	養育・支援の標準的な実施方法が確立している。	第三者 評価結果
①	40 養育・支援について標準的な実施方法が文書化され養育・支援が実施されている。	a
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法が適切に文書化されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法には、子どもの尊重や権利擁護とともにプライバシーの保護に関わる姿勢が明示されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。	<input type="radio"/>

【コメント】

■標準的な実施方法は、「援助の手引き」として各年度ごとに作成して職員に配布し、年度当初の職員会議、研修の場において周知を図っています。
 ■内容については、基本的な指針をはじめ、子どもの尊重や権利擁護、プライバシーの保護、日常生活の支援の仕方等細部にわたって明瞭に文章化されています。

②	41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的に行われている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。	<input type="radio"/>

検証・見直しにあたり、職員や子ども等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。

○

【コメント】

■標準的な実施方法の見直しは、フロア会議の検討を基に、毎年2月から3月にかけて、運営会議の場で行われています。
■自立支援計画作成方法についても、同様に検討が行われ、計画の策定手順や、様式などについてマニュアル化されています。

(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。

①

42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。

a

自立支援計画策定の責任者を設置している。

○

アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。

○

部門を横断したさまざまな職種の関係職員(種別によっては施設以外の関係者も)が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。

○

自立支援計画には、子ども一人ひとりの具体的なニーズ、具体的な養育・支援の内容等が明示されている。

○

自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員(種別によっては組織以外の関係者も)の合議、子どもの意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。

○

支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な養育・支援が行われている。

○

【コメント】

■自立支援計画は、子どもの担当者及びフロアリーダーが作成しています。入所にあたっては「児童状態把握シート」というチェック表を基にし、担当⇒フロアリーダー⇒主任という経路で決定や見直しが行われています。
■自立支援計画作成においては、幼児版、学童版というように発達段階に応じて様式や項目の異なったものが用意されており、また、子ども自身が担当と協同で作成する取り組みがなされているところも高く評価されます。

②

43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。

a

自立支援計画どおりに養育・支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。

○

自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、子どもの意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。

○

見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。

○

自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。

○

自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、養育・支援を十分に実施できていない内容(ニーズ)等、養育・支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。

○

【コメント】

■自立支援計画の見直しは年2回行われています。見直しにあたっては、「自立支援計画見直しシート」を作成し、心理担当職員等、多職種の職員によって協議検討する仕組みとなっています。
■緊急に計画の変更が必要となった場合については、必要に応じて緊急ケース会議を開き、内容の検討を行なっています。

(3) 養育・支援の実施の記録が適切に行われている。

①

44 子どもに関する養育・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。

a

子どもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。

○

自立支援計画にもとづく養育・支援が実施されていることを記録により確認することができる。

○

記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。

○

施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。

○

<input type="checkbox"/> 情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの閲覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。	<input type="radio"/>

【コメント】

■記録はPCでソフトウェアを用いてなされており、記録ファイルの閲覧や情報を共有する施設内ネットワークが整備されています。また、タブレットやスマホによる検索も可能になっています。
 ■記録の書き方については、書き方の例やモデルを共有し、文字ポイントの大きさや用語の統一化なども行われています。

②	45 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 個人情報保護規程等により、子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 記録管理の責任者が設置されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 個人情報の取扱いについて、子どもや保護者等に説明している。	<input type="radio"/>

【コメント】

■子ども及びその保護者・家族に関わる個人情報の取得、管理、保護、使用などについては、法人の「個人情報保護規程」に基づき厳正に行なっています。また、保護者等に対しては、当施設の「個人情報保護方針」によって周知しています。

内容評価基準（24項目）

A-1 子どもの権利擁護、最善の利益に向けた養育・支援

(1) 子どもの権利擁護	第三者 評価結果	
①	A1 子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの権利擁護に関する取組が周知され、規程・マニュアル等にもとづいた養育・支援が実施されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 権利擁護に関する取組について職員が具体的に検討する機会を定期的に設けている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 権利侵害の防止と早期発見するための具体的な取組を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの思想・信教の自由について、最大限に配慮し保障している。	<input type="radio"/>

【コメント】

■権利擁護の研修として外部講師を招いて「CAP子どもワークショップ」を実施するなどして、職員・子ども共々人権擁護についての学習に取り組んでいます。
 ■当施設は基督教の理念に基づき運営されていますが、特定の宗教を信仰している保護者を持つ入所児童などに対しては、宗教色のある行事の際には、事前に参加を希望するか否かを確認しており、クリスマスについても、イベントとして楽しむプログラムとなっています。

(2) 権利について理解を促す取組		
①	A2 子どもに対し、自他の権利について正しい理解を促す取組を実施している。	a
	<input type="checkbox"/> 権利についての理解を深めるよう、年齢に配慮した説明を工夫し、日常生活を通して支援している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの年齢や状態に応じて、権利についての理解を深めるよう、権利ノートやそれに代わる資料等を使用して、生活の中で保障されるさまざまな権利についてわかりやすく説明している。	<input type="radio"/>

<input type="checkbox"/> 職員間で子どもの権利に関する学習機会を持っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりがかけがえのない大切な存在であり、自分を傷つけたりおとしめたりしてはならないこと、また、他人を傷つけたり脅かしたりしてはならないことが、日々の養育の中で伝わっている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 年下の子どもや障がいのある子どもなど、弱い立場にある子どもに対して、思いやりの心をもって接するように支援している。	<input type="radio"/>

【コメント】

■「権利」という抽象的な概念を、子どもの個々の年齢や発達状況に合わせて、CAPのキーワード“安心・自信・自由”を用いながら、日常生活の中でわかりやすく説明し、理解を促しています。
 ■CAPIについては、職員向けの研修も実施して、職員と子どもがよりよく共有できるよう取組まれています。

(3) 生き立ちを振り返る取組

① A3 子どもの発達状況に応じ、職員と一緒に生き立ちを振り返る取組を行っている。	a
<input type="checkbox"/> 子どもの発達状況等に応じて、適切に事実を伝えようと努めている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 事実を伝える場合には、個別の事情に応じて慎重に対応している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 伝え方や内容などについて職員会議等で確認し、職員間で共有している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 事実を伝えた後、子どもの変容などを十分把握するとともに、適切なフォローを行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりに成長の記録(アルバム等)が用意され、空白が生じないように写真等の記録の収集・整理に努めている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 成長の過程を必要に応じて職員と一緒に振り返り、子どもの生き立ちの整理に繋がっている。	<input type="radio"/>

【コメント】

■子どもの生き立ちを振り返る取り組みを重視し、経過記録ソフトにLSW(ライフストーリーワーク)の項目を設定し、生活の中でのLSWを実施しています。具体的には、出身乳児院や出生した病院訪問、移動の地図やエコマップ、生活年表、アルバムの整備など子どもの発達や特性に応じた取り組みを実施しています。

(4) 被措置児童等虐待の防止等

① A4 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	a
<input type="checkbox"/> 体罰や不適切なかかわり(暴力、人格的辱め、心理的虐待など)があった場合を想定して、施設長が職員・子ども双方にその原因や体罰等の内容・程度等、事実確認をすることや、「就業規則」等の規程に基づいて厳正に処分を行う仕組みがとられている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止について、会議等で具体的な例を示すなどして職員に徹底し、行われていないことを確認している。また、不適切なかかわりを発見した場合は、記録し、必ず施設長に報告することが明文化されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 子どもが自分自身を守るための知識、具体的方法について学習する機会を設けており、不適切なかかわりの具体的な例を示して、子どもに周知し、子ども自らが訴えることができるようにしている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待が疑われる事案が生じたときに、施設内で検証し、第三者の意見を聞くなどの迅速かつ誠実な対応をするための体制整備ができており、被措置児童等虐待の届出・通告があった場合には、届出者・通告者が不利益を受けることのない仕組みが整備・徹底されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について説明した資料を子ども等に配布、説明している。また、掲示物を掲示するなどして、子どもが自ら訴えることができるようにしている。	<input type="radio"/>

【コメント】

■施設職員による不適切なかかわりの防止については『叱る依存』のドラマ上映などによる啓発研修を行なっています。
 ■子どもからの声(言い方がきつい、声大きいなど)やショートステイ利用者からの苦情などを職員で共有するといった、再発防止へのサイクルが定着・機能しています。

(5) 支援の継続性とアフターケア

①	A5 子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、不安の軽減を図りながら移行期の支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの生活の連続性に関して、施設全体でその重要性を理解し、入所や退所に伴う不安を理解し受け止めるとともに、子どもの不安を軽減できるように配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 入所した時、温かく迎えることができるよう、受け入れの準備をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもがそれまでの生活で築いてきた人間関係などを、可能な限り持続できるように配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰や施設変更にあたり、子どもが継続して安定した生活を送ることができるよう、支援を行っている。	○

【コメント】

■当施設に併設されている乳児院からの措置変更にあたっては、4月から3か月間（23回）のつなぎ保育を実施し、子どものペースに合わせるよう配慮しています。
 ■里親委託の子どもにおいては、子どもの意向を尊重して委託開始時期の予定を変更したり、通院に同行するなどして、少しでも子どもが安心できるように努めています。

②	A6 子どもが安定した社会生活を送ることができるようリービングケアと退所後の支援に積極的に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズを把握し、退所後の生活に向けてリービングケアの支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 退所後も施設に相談できる窓口(担当者)があり、支援をしていくことを伝えている。	○
	<input type="checkbox"/> 退所者の状況の把握に努め、記録が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 行政機関や福祉機関、あるいは民間団体等と連携を図りながらアフターケアを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 本人からの連絡だけでなく、就労先、アパート等の居住先からの連絡、警察等からのトラブル発生時の連絡などにも対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 退所者が集まれる機会や、退所者と職員・入所している子どもとが交流する機会を設けている。	○

【コメント】

■里親委託になったケースでは、転校先の小学校のカンファレンスや行事に参加したり、退所後も親族との交流に関与するなど継続した支援に努めています。
 ■家庭引き取りのケースにおいては、電話により近況の確認や相談に応じ、退所後の生活の安定が図れるよう力を注いでいます。

A-2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の基本		第三者 評価結果
①	A7 子どもを理解し、子どもが表出する感情や言動をしっかり受け止めている。	a
	<input type="checkbox"/> 職員はさまざまな知見や経験によって培われた感性に基づいて子どもを理解し、受容的・支持的な態度で寄り添い、子どもと共に課題に向き合っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの生育歴を知り、そのときどきで子どもの心に何が起こっていたのかを理解している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが表出する感情や言動のみを取り上げるのではなく、被虐待体験や分離体験などに伴う苦痛・いかり、見捨てられ感も含めて、子どもの心に何が起こっているのかを理解しようとしている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもに行動上の問題等があった場合、単にその行為を取り上げて叱責するのではなく、背景にある心理的課題の把握に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもたちに職員への信頼が芽生えていることが、利用者アンケートを通じて感じられる。	○
【コメント】		
■「トラウマインフォームドケア」や「叱る依存」などの研修を職員全員で受講し、子どもの感情や言動を理解するよう努めています。また、その研修内容を子どもとも共有し、『感情カード』『ハートのワーク』『気持ちの温度計』『こころの救急箱』といった受け入れやすい形で、感情調整スキルの習得を図っています。 ■利用者アンケートに代わるものとして、2か月に1回の個別面談を行い、意見や感情の受け止めに努めています。		
②	A8 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活をいとなむことを通してなされるよう養育・支援している。	b

<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりの基本的欲求を満たすよう努めている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 基本的欲求の充足において、子どもと職員との関係性を重視している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 生活の決まりは、秩序ある生活の範囲内で子どもの意思を尊重した柔軟なものとなっている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 子どもにとって身近な職員が一定の裁量権を有し、個々の子どもの状況に応じて柔軟に対応できる体制となっている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 基本的な信頼関係を構築するために職員と子どもが個別に触れ合う時間を確保している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 夜目覚めたとき大人の存在が感じられるなど安心感に配慮している。	<input type="radio"/>

【コメント】

- 週に1回の散歩や2か月に1回の個別面談など、生活の中で個別化が図られるように努めています。
- 開設してわずか5年というなか、若手職員が多い状況において、個々の職員の的確な判断や柔軟な対応が難しい面はありますが、フロアミーティングで必要性和目的等を確認・共有し、事案や場面によって対応職員をあらかじめ決めておくなどの工夫もなされています。
- 今後、消灯後などにも子どもがより以上の安心感がもてるよう、さらなる工夫が望まれます。

③ A9 子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切にし、子ども自身が自らの生活を主体的に考え、営むことができるよう支援している。	a
<input type="checkbox"/> 快適な生活に向けての取組を職員と子どもが共に考え、自分たちで生活をつくっているという実感を持たせるとともに、施設の運営に反映させている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 子どもが自分たちの生活における問題や課題について主体的に検討する機会を日常的に確保している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 子どもがやらなければならないことや当然できることについては、子ども自身が行うように見守ったり、働きかけたりしている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 子どもを見守りながら状況を的確に把握し、賞賛、励まし、感謝、指示、注意等の声かけを適切に行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> つまずきや失敗の体験を大切にし、主体的に問題を解決していくよう支援し、必要に応じてフォローしている。	<input type="radio"/>

【コメント】

- たとえば入浴の時間・順番、シャンプーの好みのことなどにおいても、子どものより主体的な生活を支援し見守るという姿勢や、彼処に細々とした努力がはらわれていることが伺えます。
- 習い事については、子どもの発達状況を考慮して、子どものレベルに合わない希望の場合にも、体験学習に参加させて自己覚知を促し、納得の結論が導かれるように努めています。

④ A10 発達の状況に応じた学びや遊びの場を保障している。	a
<input type="checkbox"/> 施設内での養育が、年齢や発達の状況、課題等に応じたプログラムの下、実施されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 日常生活の中で、子どもたちの学びや遊びに関するニーズを把握し、可能な限りニーズに応えている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 幼児から高校生まで、年齢段階に応じた図書などの文化財、玩具・遊具が用意、利用されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 学校や地域にある子どもたちの学びや遊びに関する情報を把握し、必要な情報交換ができています。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 子どものニーズに応えられない場合、子どもがきちんと納得できる説明がされている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 幼稚園等に通わせている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 子どもの学びや遊びを保障するための、資源(専門機関やボランティア等)が充分に活用されている。	<input type="radio"/>

【コメント】

- 子どもの成長に合わせて、様々なサイズの(寄贈)自転車や乗用玩具を準備して、日常に提供しています。
- 図書については、子どもの希望を取り入れて用意するとともに図書館を積極的に活用し、さらに、アマゾンライブラリーと契約して視聴ができるようにといった取組みも行われています。
- 地域の子ども食堂に参画して、利用するとともに、調理好きな子どもはスタッフとしても参加でき、地域の大人との交流や社会経験が積めるような状況を設けるなど、さまざまな工夫や努力が伺えます。

⑤	A11 生活のいとなみを通して、基本的な生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもが社会生活をいとなむ上での必要な知識や技術を日常的に伝え、子どもがそれらを習得できるよう支援している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもと職員が十分な話し合いのもとに「しなければならないこと」と「してはならないこと」を理解し、生活するうえでの規範等守るべき決まりや約束を一緒に考え作っていくようにしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 地域社会への積極的参加を図る等、社会性を習得する機会を設けている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 発達の状況に応じ、身体の健康(清潔、病気、事故等)について自己管理できるよう支援している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 発達の状況に応じて、電話の対応、ネットやSNSに関する知識などが身につくように支援している。	<input type="radio"/>

【コメント】

■設備の修繕、家具の組み立てなどは職員と子どもが一緒に行い、日常生活上のスキル習得を心がけています。
 ■地域交流については、前述の子ども食堂への参画のほか、社会福祉協議会と連携しての凧揚げや農作物の収穫体験などにも参加し、地域住民との異世代交流にも取り組んでいます。
 ■携帯電話、SNS、ゲーム等については、個々の発達に応じて、その危険性も周知したうえ、ルール遵守などの条件付きながら、積極的な姿勢を以て使用を容認しています。

(2) 食生活

①	A12 おいしく楽しみながら食事ができるように工夫している。	a
	<input type="checkbox"/> 楽しい雰囲気ですら食事できるように、年齢や個人差に応じて食事時間に配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 食事時間が他の子どもと違う場合にも、温かいものは温かく、冷たいものは冷たくという食事の適温提供に配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 食事場所は明るく楽しい雰囲気、常に清潔が保たれたもとで、職員と子ども、そして子ども同士のコミュニケーションの場として機能するよう工夫している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 定期的に残食の状況や子どもの嗜好を把握するための取組がなされ、それが献立に反映されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 基礎的な調理技術を習得できるよう、食事やおやつをつくる機会を設けている。	<input type="radio"/>

【コメント】

■食事は基本的に厨房調理し、各ホームへ配食する体制となっておりますが、可能な限り温かいものは温かく食することができるように配慮されています。
 ■食器、ランチョンマット、箸置きなども子どもの好みを取り入れて楽しい食事の雰囲気づくりに努めています。
 ■リクエストメニュー、誕生日メニュー(20種類からの選択)などバラエティーに富んでおり、行事食もクリスマスメニュー、串カツパーティー、てまり寿司など多彩です。
 ■おやつ等柔軟な対応ができるよう、各ホームに1か月1000円の調理予算が積まれています。

(3) 衣生活

①	A13 衣類が十分に確保され、子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 常に衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを着用している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 汚れた時にすぐに着替えることができ、またTPOに合わせた服装ができるよう、十分な衣類が確保されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 気候、生活場面、汚れなどに応じた選択、着替えや衣類の整理、保管などの衣習慣を習得させている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 洗濯、アイロンかけ、補修等衣服の管理を子どもの見えるところで行うよう配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 衣服を通じて子どもが適切に自己表現をできるように支援している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 発達状況や好みに合わせて子ども自身が衣服を選択し購入できる機会を設けている。	<input type="radio"/>

【コメント】

■子どもと一緒に衣料を購入する機会を積極的に設けています。また、コロナ禍で外出を控える中で、あえてネットショッピングを体験させ、そのメリット・デメリットなども伝える機会として取り組んでいます。
 ■個々の好み・こだわりがあって既製品では対応が困難な場合もありますが、ボランティアの協力を得たり、リユース品の購入によって調達するなど、工夫・努力が伺えます。

(4) 住生活

①	A14 居室等施設全体がきれいに整美され、安全、安心を感じる場所となるように子ども一人ひとりの居場所を確保している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもにとって居心地の良い安心安全な環境とは何かを考え、積極的に環境整備を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 小規模グループでの養育を行う環境づくりに配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 中学生以上は個室が望ましいが、相部屋であっても個人の空間を確保している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 身につけるもの、日常的に使用するもの、日用品などは、個人所有としている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 食堂やリビングなどの共有スペースは常にきれいにし、家庭的な雰囲気になるよう配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 設備や家具什器について、汚れたり壊れたりしていない。破損個所については必要な修繕を迅速に行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 発達や子どもの状況に応じて日常的な清掃や大掃除を行い、居室等の整理整頓、掃除等の習慣が身につくようにしている。	<input type="radio"/>

【コメント】

■居室は、ほぼ全室個室となっており、子どもが自由に模様替えし、装飾を行い、思い思いの空間を作っています。また、子どもの自己肯定感が育まれることを意識して、子どもの大切な写真や賞状類、自信作の絵画・工芸品なども飾ったりしています。
 ■居室の整理・整頓については、収納マイスターの資格を持つボランティア(「お片付け博士」)が、定期的に片づけの方法をアドバイスしてくれています。

(5) 健康と安全

①	A15 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康を管理するとともに、必要がある場合は適切に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握し、定期的に子どもの健康管理に努めている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 健康上特別な配慮を要する子どもについては、医療機関と連携して、日頃から注意深く観察し、対応している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 受診や服薬が必要な場合、子どもがその必要性を理解できるよう、説明している。服薬管理の必要な子どもについては、医療機関と連携しながら服薬や薬歴のチェックを行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職員間で医療や健康に関して学習する機会を設け、知識を深める努力をしている。	<input type="radio"/>

【コメント】

■服薬が必要な子どもに対して、服薬する理由や薬の効能などについて、説明書やパンフレット等により丁寧に解説しています。
 ■ヒヤリハット報告の中に薬に関係する事例が見られました。今後、乳児院の看護師あるいは法人の他の施設の看護師などの協力を得て、学習会など知識を深める機会を設けることが望まれます。

(6) 性に関する教育

①	A16 子どもの年齢・発達の状況に応じて、他者の性を尊重する心を育てるよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	b
	<input type="checkbox"/> 他者の性を尊重し、年齢相応で健全な他者とのつき合いができるよう配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 性をタブー視せず、子どもの疑問や不安に答えている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 性についての正しい知識、関心が持てるよう、年齢、発達の状況に応じたカリキュラムを用意し、活用している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて外部講師を招く等して、性をめぐる諸課題への支援や、学習会などを職員や子どもに対して実施している。	<input type="radio"/>

【コメント】

■性的なことがらがタブー視されることがないように、子どもが日常、正しい情報に触れられるよう、ホームの本棚に性教育の本を置いたり、共有タブレットに性教育の動画アプリをダウンロードするなど工夫しています。
 ■必要に応じて、他者との適切な距離を維持するためのサークルや、良いタッチ・悪いタッチについて、職員が実践的に学べるよう研修に参加しています。今後、研修で得た知見を基に性教育についてのカリキュラムを作成することが望まれます。

(7) 行動上の問題及び問題状況への対応

①	A17 子どもの暴力・不適応行動などの行動上の問題に対して、適切に対応している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設が、行動上の問題があった子どもにとっての癒しの場になるよう配慮している。また、周囲の子どもの安全を図る配慮がなされている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設の日々の生活が持続的に安定したものとなっていることは、子どもの行動上の問題の軽減に寄与している。また子どもの行動上の問題が起きた時も、その都度、問題の要因を十分に分析して、施設全体で立て直そうと努力している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 不適切な行動を問題とし、人格を否定しないことに配慮をしている。職員の研修等を行い、行動上の問題に対して適切な援助技術を習得できるようにしている。暴力を受けた職員へ無力感等への配慮も行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> くり返し児童相談所、専門医療機関、警察等と協議を重ね、事態改善の方策を見つけ出そうと努力している。	<input type="radio"/>

【コメント】

■子どもの行動化については、医療機関と連携するとともに、SVを受ける中で行動化のメカニズム(応用行動分析や交流分析など)を学ぶように努めています。
 ■行動上の問題があった子どもが、自分の部屋でタイムアウトし落ち着いていけるような方法の定着に努めています。
 ■小規模ケアでの問題行動が他児に与える影響を考慮して、周りの子どもたちに留意した対応のあり方について、具体的な検討と細心の実践が進められています。

②	A18 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 問題の発生予防のために、施設内の構造、職員の配置や勤務形態のあり方について定期的に点検を行っており、不備や十分でない点は改善を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 生活グループの構成には、子ども同士の関係性、年齢、障害などへの配慮の必要性等に配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 課題のある子ども、入所間もない子どもの場合は特別な配慮が必要となることから、児童相談所と連携して個別援助を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 大人(職員)相互の信頼関係が保たれ、子どもがそれを感じ取れるようになっている。子ども間での暴力やいじめが発覚した場合には、施設長が中心になり、全職員が一丸となって適切な対応ができるような体制になっている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 暴力やいじめに対する対応が施設だけでは困難と判断した場合には、児童相談所や他機関等の協力を得ながら対応している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子ども間の性的加害・被害を把握し適切に対応している。	<input type="radio"/>

【コメント】

■暴力的行動やいじめなどについては、職員と子どもとの定期的な個人面談を実施することで、子どもたちの感情やトラブルなどにいち早く対応できるようにしています。また、発見後は個別のアプローチだけでなく、ホーム全体に対してCAPの考え方や意見表明方法についてレクチャーするなどし対応しています。
 ■暴力に関する具体的事例や限界設定を理解してもらうために、権利ノートや子ども福祉六法に関する本や資料を解りやすいようにアレンジして提供するなど、さまざまな工夫をこらしています。

(8) 心理的ケア

①	A19 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアを必要とする子どもについては、自立支援計画に基づき心理支援プログラムが策定されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設における職員間の連携が強化されるなど、心理的支援が施設全体の中で有効に組み込まれている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアが必要な子どもへの対応に関する職員研修やスーパービジョンが行われている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職員が必要に応じて外部の心理の専門家からスーパービジョンを受ける体制が整っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 心理療法を行うことができる有資格者を配置し、心理療法を実施するスペースを確保している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 児童相談所と連携し、対象となる子どもの保護者等へ定期的な助言・援助を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

■基本方針の「心身の健康の保障」の項において、日々の生活における心理的ケアを行う子と、心理治療が必要な子どもに対しては自立支援計画に反映して支援をすることが明記されており、日常のフロア会議や各種会議にも心理士が参加しています。
 ■綿密なアセスメントや導入面接を行なったうえで、プレイセラピーを実施しています。

(9) 学習・進学支援、進路支援等

①	A20 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 静かに落ち着いて勉強できるようにその時の本人の希望に沿えるような個別スペースや学習室を用意するなど、学習のための環境づくりの配慮をし、学習習慣が身につくよう援助している。	○
	<input type="checkbox"/> 学校教師と十分な連携をとり、常に子ども個々の学力を把握し、学力に応じた個別的な学習支援を行っている。一人ひとりの必要に応じて、学習ボランティアや家庭教師、地域の学習塾等を活用する機会を提供している。	○
	<input type="checkbox"/> 学力が低い子どもについては、基礎学力の回復に努める支援をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 忘れ物や宿題の未提出について把握し、子どもに応じた支援をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 障害のある子どものために、通級による指導や特別支援学級、特別支援学校等への通学を支援している。	○

【コメント】

■地元の豊中市はインクルーシブ教育が推進されており、支援学級在籍児童も原学級で同じように授業を受けていますが、適切に入所児童に対する合理的な配慮がなされるよう学校との連携を図っています。
 ■学習の支援については、子ども個々の発達状況、学習能力の状況を考え、方法、場所、時間など個々に異なる対応をしています。そのために、ボランティア、非常勤職員(週2日)、学習塾、地域の学習会など多様な資源を活用しています。

②	A21 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 進路について自己決定ができるよう進路選択に必要な資料を収集し、子どもに判断材料を提供し、子どもと十分に話し合っている。	○
	<input type="checkbox"/> 進路選択に当たって、本人、親、学校、児童相談所の意見を十分聞き、自立支援計画に載せ、各機関と連携し支援をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 就学者自立生活支援事業、社会的養護自立支援事業、身元保証人確保対策事業、奨学金など、進路決定のための経済的な援助の仕組みについての情報提供をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 進路決定後のフォローアップや失敗した場合に対応する体制ができており、対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 学校を中退したり、不登校となった子どもへの支援のなかで、就労(支援)しながら施設入所を継続することをもって社会経験を積めるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 高校卒業後も進学を希望する子どものために、資金面、生活面、精神的面など、進学の実現に向けて支援、情報提供をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 高校卒業して進学あるいは就職した子どもであっても、不安定な生活が予想される場合は、必要に応じて措置延長を利用して支援を継続している。	○

【コメント】

■開設して5年目の当施設では、未だ大学進学や就職といった事例はありませんが、早晩生じる課題との認識を持ち、様々なケースを想定をしながら準備に取り掛かっています。
 ■高校を中退したケースにあっては、障がい福祉資源の利用や通信制高校への転入など、個別のニーズに合わせた対応を進めています。

③	A22 職場実習や職場体験、アルバイト等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、社会の仕組みやルールなど、自分の行為に対する責任について話あっている。	○
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、金銭管理や生活スキル、メンタル面の支援など、子どもの自立支援に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 実習先や体験先の開拓を積極的に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 職場実習の効果を高めるため、協力事業主等と連携している。	○
	<input type="checkbox"/> アルバイトや、各種の資格取得を積極的に奨励している。	○

【コメント】

■職場体験については、近隣の支援者(事業主)の協力で、近く高校1年生の男子での実施予定があります。
 ■資格取得については、漢検、英検などに取り組む子どもをサポートしています。

(10) 施設と家族との信頼関係づくり

①	A23 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設の相談窓口および支援方針について家族に説明し、家族と施設、児童相談所が子どもの成長をともに考えることを伝え、家族と信頼関係を構築できるよう図っている。	○
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員の役割を明確にし、施設全体で家族関係調整、相談に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅などを取り入れ子どもと家族の継続的な関係づくりに積極的に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 外出、一時帰宅後の子どもの様子を注意深く観察し、不適切なかかわりの発見に努め、さらに保護者等による「不当に妨げる行為」に対して適切な対応を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもに関係する学校、地域、施設等の行事予定や情報を家族に随時知らせ、必要に応じて保護者等にも行事への参加や協力を得ている。	○

【コメント】

■家庭支援専門相談員の役割を明確にして施設全体での家族関係調整に取り組んでいます。
 ■家庭支援については、関係機関や周縁の理解者・支援者とも連携して、保護者へのアプローチ方法等について協議をしています。取り組みについての振り返りシートを作成し、保護者の思いを傾聴しながら、養育スキルの向上を目指した取り組みにも繋げています。

(11) 親子関係の再構築支援

①	A24 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員を中心に、ケースの見立て、現実的な取組を可能とする改善ポイントの絞り込みを行うなど、再構築のための支援方針が明確にされ施設全体で共有されている。	○
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅、あるいは家庭訪問、施設における親子生活訓練室の活用や家族療法事業の実施などを通して、家族との関係の継続、修復、養育力の向上などに取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 児童相談所等の関係機関と密接に協議し連携を図って家族支援の取組を行っている。	○

【コメント】

■家庭支援専門相談員を中心に、ケースの見立てを行なって現実的な方法・手段を検討し、家族再構築に向けたさまざまな取り組みが行われています。
 ■面会等が困難な保護者についてはオンライン面会を勧め、施設内の親子訓練室(和室)を活用しての親子体験を実施したり、親子の手紙交流を行ったりしています。また、子どもの気持ちを記したカードを作って意思の疎通を図るなど、工夫を凝らした丁寧な取り組みがなされています。